

# JST 理事長 記者説明会

令和3年 7月 28日



科学技術振興機構

1. 第3回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）
2. 次世代研究者挑戦的研究プログラム
3. 国際化学オリンピック日本大会2021開催

# 第3回輝く女性研究者賞 (ジュン アシダ賞)



科学技術振興機構

# 概要

## 趣旨

女性研究者の活躍を推進する取り組みの一環として、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者及びその活躍を推進している機関を表彰。なお、芦田基金(※)より、副賞100万円提供のご協力をいただきます。

※ 1994年に、デザイナーの故 芦田 淳 氏が、青少年育成を目的として公益社団法人科学技術国際交流センター(JISTEC)に寄附し設立された基金

## 対象者 (自薦/他薦ともに可)

- **【輝く女性研究者賞】**  
:女性研究者 1名 原則40歳未満  
(ただしライブイベントによる研究活動休止期間を勘案)
- **【輝く女性研究者活躍推進賞】**  
:機関 1機関  
女性研究者の活躍推進に貢献する、他機関のモデルとなるような取り組みを行っている機関

## スケジュール

募集期間 4月1日～6月30日日本時間正午

選考 7月上旬～8月下旬

**受賞者発表・表彰式 11月3日(水・祝)**

(場所:日本科学未来館)

## 選考委員(敬称略、委員長を除き五十音順)



鳥居 啓子(委員長)



浅川 智恵子



阿部 玲子



大草 芳江



北川 宏



所 千晴



村山 斉



柳沢 正史

➤ お問い合わせ先  
JSTダイバーシティ推進室  
電話:03-5214-8443 メール:[diversity@jst.go.jp](mailto:diversity@jst.go.jp)

# これまでの受賞者・機関

輝く女性研究者賞  
(ジュン アシダ賞)

輝く女性研究者活躍推進賞  
(ジュン アシダ賞)

輝く女性研究者賞  
(科学技術振興機構理事長賞)

## 第1回(2019年度) 受賞者

戎家 美紀

European Molecular Biology  
Laboratory Barcelona  
グループリーダー

専門分野  
構成的発生生物学



国立大学法人九州大学  
(総長 久保千春)

深澤 愛子

京都大学 高等研究院  
物質-細胞統合システム拠点  
教授

専門分野  
有機典型元素化学  
有機材料化学



## 第2回(2020年度) 受賞者

坂井 南美

理化学研究所 開拓研究本部  
坂井星・惑星形成研究室  
主任研究員

専門分野  
天文学



国立大学法人群馬大学  
(学長 平塚浩士)

星野 歩子

東京工業大学  
生命理工学院  
准教授

専門分野  
分子生物学



# 次世代研究者 挑戦的研究プログラム



科学技術振興機構

# 事業の背景と目的

## 背景と目的

### 【背景】

- 博士後期課程における経済的不安とアカデミアや産業界を含む将来のキャリアパスが不透明であるため、博士後期課程への進学率が低下傾向
- 博士後期課程学生と産業界のニーズとのミスマッチ等により、博士後期課程修了者の就職率が停滞



### 【事業の目的】

- 博士後期課程学生による既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を支援
- 生活費相当額を含めた研究奨励費等を支給することで学生が研究に専念できる環境を整備
- あわせてキャリアパスの支援等を行い、優秀な博士後期課程学生を多様なキャリアパスで活躍できる博士人材へと導く

# 概要

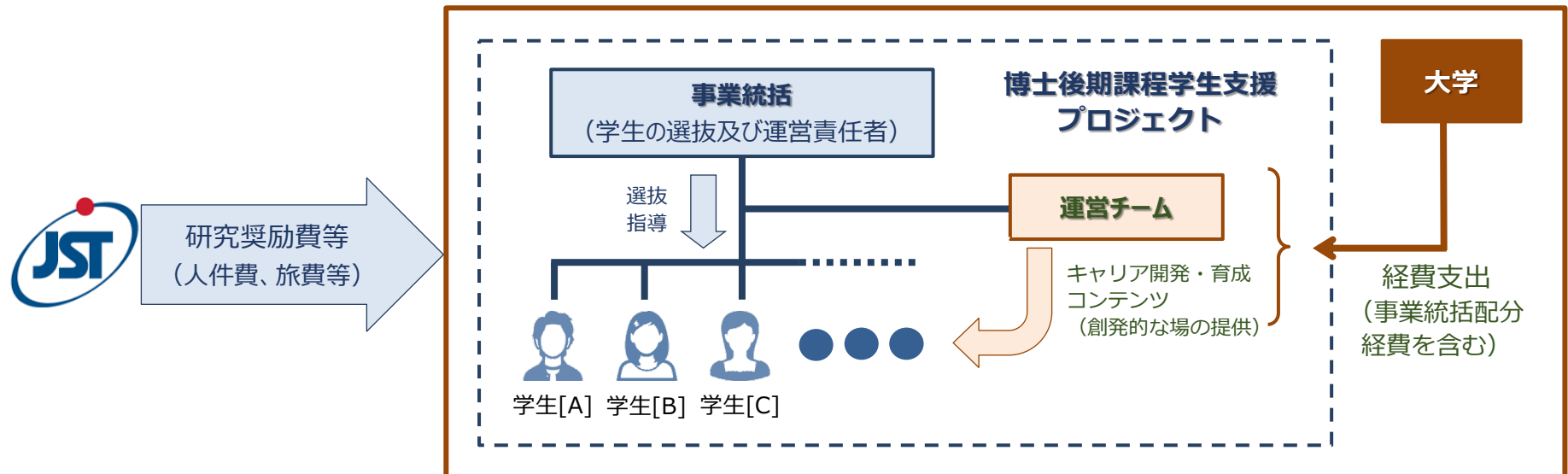
## □ 申請主体及び事業実施機関：事業統括

- 日本国内の国公立大学が、事業統括をあらかじめ決定し、当該事業統括が申請を行う。
- 複数大学の所属学生を一括して対象とする等の共同申請も可能。

## □ 支援内容：博士後期課程学生支援プロジェクト

- 事業統括により既存の学内組織・分野の枠組みを越えて適切に選抜された優秀な博士後期課程学生に対し、生活費相当額及び研究費の支給やキャリア開発・育成コンテンツの提供等を一体的に推進する、各大学における博士後期課程学生支援の取組。

※ 博士後期課程学生支援プロジェクトの実施状況等に関しては、JSTから学生に対する直接のフォローアップも含めたモニタリング・評価を実施。





# 応募状況及び今後のスケジュール

## 応募状況

応募期間 6月11日～7月15日(A日程)

9月30日(B日程)

※A日程の結果、博士後期課程学生の採用枠に残余がある場合のみ

## 今後のスケジュール

選考(A日程) 7月中旬～8月下旬

採択機関発表 8月下旬

支援開始 9月以降

# 国際化学オリンピック日本大会2021 開催



科学技術振興機構



# 第53回国際化学オリンピック日本大会2021 (IChO Japan 2021)

## Chemistry! It's Cool!

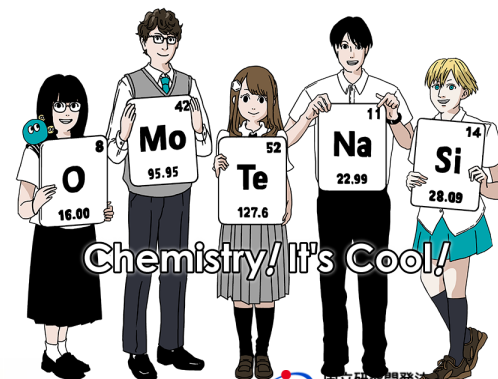
- 主催 : 国際化学オリンピック日本委員会(玉尾皓平理事長・組織委員会委員長)  
会期 : 2021年7月25日(日)~8月2日(月) 9日間  
開催形式 : リモート開催  
参加国 : 85カ国・地域 (79カ国・地域プラスオブザーバー国6カ国\*)  
参加人数 : 代表生徒312名 メンター等180名 合計約500名\*

\*参加国数、人数などは7月26日時点での集計

開催目的: 「**化学で未来を明るくする**」。

世界中の高校生らが互いに競い合うことで、学術および化学・素材産業の次世代を担うグローバル人材の育成に寄与する。

日本は2010年第42回大会に続く2度目の主催





# IChO 2021 Japan スケジュール

- 要点: ①リモート大会だからこそ、「時空を超えた経験」の提供  
②公平・公正な試験・採点の実施

7月25日(日)	15:00	開会式(Web公開、生徒アバター参加)
7月28日(水)	14:00以降、	理論試験、各国で調整した時間で開始 所要時間5時間(日本は14:00~21:00)
7月29日(木)		生徒アクティビティ(Spring-8 バーチャルツアー)
7月30日(金)		生徒アクティビティ(予定されていた実験試験のビデオ解説)
7月31日(土)		生徒アクティビティ(リモート観光、仏像修復など文化体験)等
8月2日(月)	21:00	表彰式(Web公開、生徒アバター参加)

JSTは次世代人材育成事業の一環として  
国際科学オリンピックの日本開催を支援しています。  
(2018年情報、2020年生物学が終了。2023年物理、数学が開催予定)

既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な構想に、リスクを恐れず果敢に挑戦し続ける独立前後の多様な研究者を対象に、研究者の流動性を担保しつつ、最長10年間の安定した研究資金と、研究者が研究に専念できる環境の確保を一体的に支援

- ✓ ムーンショット型研究開発及び創発的研究の支援により、破壊的イノベーションにつながる成果を創出する。〈経済財政運営と改革の基本方針2020〉
- ✓ 特に、挑戦的研究や分野融合的研究を進めるためには、短期的な成果にとらわれることなく研究に専念出来る環境の確保が必要であり、創発的研究支援事業による支援を開始する。〈統合イノベーション戦略2020〉
- ✓ 今後の政府研究開発投資の方向性として、Society 5.0の実現を目標とした「戦略的研究」と、特定の課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって破壊的イノベーションの創出を目指す「創発的研究」の2つの研究に注力すべきである。〈日本経済団体連合会提言〉

## 【概要】

●応募要件：大学等における独立した／独立が見込まれる研究者  
※博士号取得後15年以内（育児・出産・介護等のライフイベントへは別途配慮）

●採択件数：250件程度／年×3回公募（計850件程度）  
※令和元年度補正予算（500億円）で予定していた計700件程度の採択に加え、令和2年度公募において50件程度の採択件数増を図るとともに、令和3、4年度の公募においても同程度の採択件数増を想定。  
※当初予算では、新規公募に係る審査・採択等に必要な経費を措置

●支援単価：700万円／年（平均）+間接経費  
※事務負担の軽減等による研究時間の確保に資する用途など、分野や研究者の置かれた環境に合わせて機動的に運用（パイアット制度（研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能とする見直し）や、直接経費から研究代表者の人件費（PI人件費）の支出について、先行的に導入）

●支援期間：7年間（最長10年間まで延長可）

●支援期間中、研究者が所属先を変更した場合も支援の継続を可能とし、研究者の流動性を確保

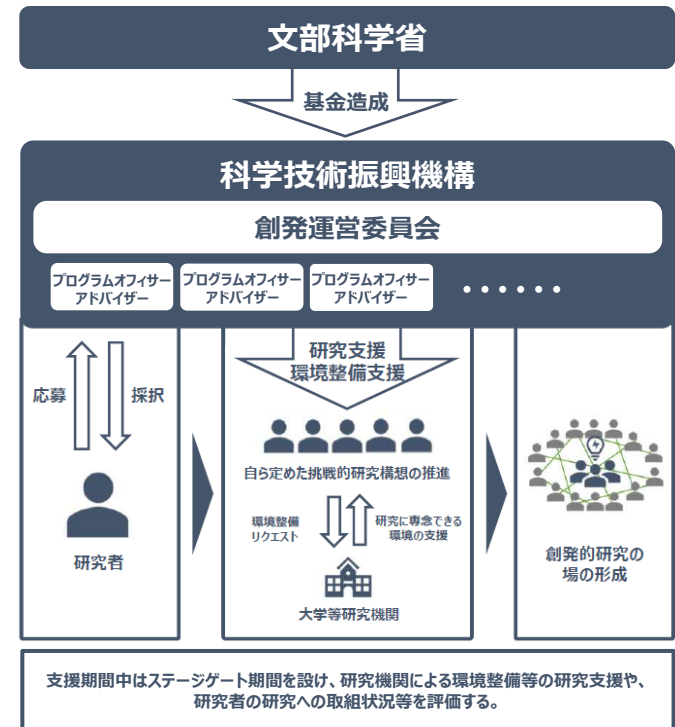
●別途、個々の研究者の状況に応じた研究環境改善のための追加的な支援を所属機関と連携しつつ実施  
※研究の進捗状況等に対応し、独立した研究者の下で創発的研究を支える博士課程学生等へのRA支援を充実 等

●創発的研究の場を形成し、研究者同士がお互いに切磋琢磨し相互触発する機会を提供

## 【特徴】

- ① 若手を中心とした多様な研究人材を対象に、国際通用性・ポテンシャルのある研究者の結集と融合
- ② 所属機関等からの支援のもと、研究者が創発的研究に集中できる研究環境を確保
- ③ 上記①②を通じて、研究者が、生き活きと、自ら定めた挑戦的な研究構想を推進

## 【事業スキーム】



→ 優れた人材の意欲と研究時間を最大化し、破壊的イノベーションにつながる成果を創出

# 本日の登壇者



うめむら まさなり  
梅村 将就

●梅村 将就（横浜市立大学 医学部医学科 循環制御医学教室・講師）

大学では生理学の教育に従事している。長年、医工連携・産学連携を進め、新しいがん治療法の開発を行ってきた。分子生物学的手法を用いて、細胞内の情報伝達メカニズムの解析を行っている。

2000年 弘前大学 医学部医学科を卒業。2006年 横浜市立大学大学院 医学研究科 博士課程を卒業。7年の市中病院で内科医として臨床業務に従事。2010年 米国ラトガース大学 分子生物学部門へ博士研究員として留学。2012年7月より現職(助教)。2019年 同教室、講師。医師・医学博士。日本内科学会総合専門医、日本循環器学会専門医、日本生理学会評議員、日本薬理学会評議員、日本病態生理学会評議員。



すながわ げんしろう  
砂川 玄志郎

●砂川 玄志郎（理化学研究所 生命機能科学研究センター・上級研究員）

2001年から大阪赤十字病院、国立成育センターで小児科医・救急医として働く。

2006年から10年間、理研・システムバイオロジー研究チーム（PI 上田 泰己）にて大学院生・ポスドクとして睡眠恒常性の研究に従事。

2015年から理研・網膜再生医療研究開発プロジェクト（PI 高橋政代）にてマウスを用いた冬眠の臨床応用の研究を開始。2020年から上級研究員となり理研・老化分子生物学研究チーム（PI 西田栄介）と網膜再生研究チームの兼務となる。